

CALVINISM, ARMINIANISM & THE WORD OF GOD

カルヴァン主義、アルミニウス主義、神のみことば

by Chuck Smith

translated by G. Auchi
permission applied for.

TABLE OF CONTENTS

序 Introduction

アルミニウス主義の5条項 The "Five Points of Arminianism"

カルヴァン主義の5特質 The "Five Points of Calvinism"

カルヴァリチャペルの立場 Calvary Chapel's Perspective

序 Introduction

Calvary Chapel Fellowshipsにおいて、共に成長している仲間であることにはどのような意味があるのでしょうか。他の福音的な教会の中で、私たちには際立った確かな特質があります。それは組織的な聖書研究の分かち合いや、すべての文化的、民族的な壁を超越する愛の強調であると指摘してもいいでしょう。Calvary Chapelはまた、現代的な音楽を特徴とした礼拝に力を注いでいることで知られています。その礼拝は主を賛美したいというキリスト者の願いと、神のことばに沿ったものです。例外を除いて、Calvary Chapelは前患難、前千年紀再臨説の立場に強く立っています。私たちはまた、イスラエルの国、その歴史的領有権と救い主の必要性に確固とした愛と支援を示しています。しかし最も重要な特質は、キリストの体の一致よりもむしろしばしば分裂をもたらす、異論を唱える教義上の論争に関して、Calvary Chapelはどちらか一方に組まない立場をとっていることで知られている、ということです。

Calvary Chapelは、聖書信仰者や教師と意見が合わない事柄に関して、軋轢を生じさせたいとも独断的でありたいとも願ってはいません。しかし、私たちの交わりと互いの一致、そして特に牧師のリーダーシップと教えについて、教義上の基礎をできる限り明確に述べることは重要です。私たちは、意見が違う信仰者を交わりに歓迎すると同時に、神のことばの真理を教える牧師の間で、教義上の理解と一致の基準を持つことを奨励しています。

Calvary Chapelは、聖書に明確に示されていない推論、専門用語、論争を避けようとしています。カルヴァン主義者とアルミニウス主義者の長時間にわたる熱心な討論よりも、論争の領域がないこの態度のほうがより重要なのです。熱い議論においては、聖書の平易な論述が無視されたり軽視されたりしやすく、自分たちが神の道を十分に理解する能力を持っていると信じやすいのです(Romans 11:33-36)。しかし、愛のうちにあるよりも「正しく」あることのほうに、より近付き始めてしまうなら、なんと悲惨なことでしょう。

うか。聖霊の働きについて議論するときには、「バプテスマ」や「満たし」などの用語をめぐって意見が分かれやすく、私たちの人生において神の霊の恵みと力を失いやすいのです。私たちが討論をしたり意見を表明するというやり方は、信仰者のうちに住まわれる祝福された聖霊を時として悲しませるというだけでなく、消してしまいます。霊の賜物についての議論では、すべての賜物よりも偉大な、愛するよにという聖書の訓戒から外れてしまいうるものです(I Cor. 12:31-14:1)。私たちの願いは、聖霊の愛と一致をとともに信仰者にもたらすことです。私たちの中心は畏れ多い神にあり、私たち自身ではありません。私たちはすべての言動において、主をあがめることをゆだねられているのです。

おそらく、John Calvin (1509-1564)の支持者とJacob Hermann (1560-1609)の支持者との討論を反映した救いの教義ほど重要で、根本的に対立している問題はありません。Jacob Hermann はArminius というラテン語の姓で最もよく知られています。16世紀の宗教改革から、キリスト者の教会と指導者は、墮落、神の主権、人間の責任、選び、運命づけ、永遠の守り、そしてイエス・キリストの贖いの本質と範囲、という問題をめぐって意見が対立しています。

改革派の中で訓練されたにもかかわらず、アルミニウスは、ジャン・カルヴァンの支持者たちによって教えられた「主権の恵み」について深刻な疑いを持ちました。彼はアムステルダムで改革派の会衆の牧師でしたが(1588)、そこでの15年の働きの間にカルヴァン主義の推論すべてに論争を始めました。彼は牧師職を離れて、ライデン大学で神学教授になりました。選びと運命予定についての連続講義こそ、悲惨な激論を招いたものなのです。1609年の彼の死後、1610年に彼の後継者たちは、「アルミニウス主義の5条項」で要約される抗議文を表しました。この文書はカルヴァン主義者の教義に対する抵抗でした。それはオランダの政府に提出されました。1618年、アルミニウスの教えをみことばの光の中で審査するために、国家的教会会議がドルトで招集されました。7ヶ月続いた154の会議の後、アルミニウス主義の5条項は異端であると宣言されたのです。会議の後、Hugo Grotiusのようなアルミニウスの弟子の多くは、投獄されるか流刑に処されました。ジョン・ウェスレーがアルミニウス主義の教えのいくつかを取り上げた際にその運動は広がっていき、メソジスト派だけでなく、ほとんどのペンテコステ教会やカリスマ系の信仰に影響を与えました。

アルミニウス主義 The "Five Points of Arminianism"

アルミニウス主義の5条項は次のものを含みます：

自由意志 FREE WILL

アルミニウスは、人間の墮落は完全ではなく、救いに関してイエス・キリストを受け入れたいと望むだけの十分な良いものが残されている、と信じました。

条件付き選び CONDITIONAL ELECTION

アルミニウスは、選びは、信じるであろうという神の予知に基づく信じました。人の「信仰活動」はその「条件」において、ないしは、その人がイエス・キリストを受け入れる「自由意志」を行使すると神が予見したことにより、永遠の命に選ばれていることにおいて、認められるものです。

普遍的贖い UNIVERSAL ATONEMENT

贖いは、神は全ての人を愛しておられる、キリストはすべての人のために死なれた、御父はだれも滅びることを望んでおられない、という事実に基づくとアルミニウスは考えました。キリストの死は、神に全ての人を救う基盤をもたらしました。しかし人はそれぞれ、救われるために自分の「自由意志」を行使しなければなりません。

可抗的恩恵 OBSTRUCTABLE GRACE

神は全ての人を救いたいと望まれたので、全ての人をキリストに「招く」ために聖霊をお遣わしになった、しかし、人は無制限の「自由意志」を持っているので、自分の人生に関する神の意志に反抗することができる、アルミニウスは信じました。また彼は、人は最初に自分の意志を行使し、その後、新生すると教えました。

恵みからの墮落 FALLING FROM GRACE

救われたいという意志がない限り神に救われたいなら、救われたいという意志を持ち続けたい限り、救いに留まり続けることはできません。

カルヴァン主義 The "Five Points of Calvinism"

おもしろいことに、フランスの宗教改革者ジャン・カルヴァンは、今日カルヴィニズムの5特質として私たちが知っていることを定型化しませんでした。これはドルト宗教会議(1618)の法令に関して出され、それに続く声明が多くの改革派信仰告白の中でこの考えを基にして作られています。カルヴィニズムは傑出した学者や神学者、説教者、改革者によってよく知られています。John Owen, George Whitefield, William Wilberforce, Abraham Kuyper, Charles Hodge, B.B. Warfield, J. Gresham Machen, and Charles Haddon Spurgeonのような人々です。

アルミニウスの教えに答えた改革派の人々は、アルミニウス主義の5条項に対する答えの頭文字を取り、TULIPという言葉で呼んでいます。

全的墮落 “T” = TOTAL DEPRAVITY

カルヴァン主義者は、人は罪と悪魔の完全な虜であり、神の助けなしにはイエス・キリストを信じようとする自分の意志を行使することができないと信じました。

無条件的選び “U” = UNCONDITIONAL ELECTION

カルヴァン主義者は、予知は神のご計画と目的に基づいており、選びは人の決断ではなく創造主の自由な意志に基づいていると信じました。

制限的贖罪 “L” = LIMITED ATONEMENT

カルヴァン主義者は、イエス・キリストは永遠の昔に父によって定められた人々を救うために死なれたと信じました。彼らの見解では、イエスは定められたすべての人(選民)を救うために死なれ、そうでない人(非選民)は滅びるということです。

不可抗的恩恵 “I” = IRRESISTIBLE GRACE

カルヴァン主義者は、主は何ものにも妨げられない不可抗的恩恵を持っておられると信じました。彼らは人の自由意志は救いから遠くかけ離れていると教え、選ばれた人々は救いに関してイエス・キリストへの信仰を表す前に、神によって新生(霊的に生まれる)することを教えました。もし完全に墮落した人が聖霊によって生まれなかったら、そのような神への応答は不可能です。

聖徒の堅忍 “P” = PERSEVERANCE OF THE SAINTS

カルヴァン主義者は、救いは永遠に主の働きで、人はその過程に関していかなることもなし得ないと信じました。神は始められたことを完成なさる方であることを信じて、聖徒は待ち望みます。

Calvary Chapelの立場 Calvary Chapel's Perspective

これらの議論で、一方を支持することも、人間の側の救いに関する聖書の真理についての解釈でイエス・キリストの御体を分裂させることも、私たちの目的ではありません。私たちは単に、Calvary Chapel fellowshipsではこれらのことについて聖書の教えをどのように理解するかを述べたいのです。

墮落 DEPRAVITY

私たちは、すべての人は罪びとであり(Romans 3:23)、人間の行いによっては救いを得ることも、受けるに足ることも、救いに値することもないと信じます(Titus 3:5)。私たちは、罪の報酬は死であり(Romans 6:23)、神の恵みを離れてはだれも救われることがないと信じます(Romans 3:10-12)。私たちは、だれも正しくなく、良いことをする能力もないと信じます(Romans 3:10-12)。そして聖霊による罪の自覚と改心がなければ、だれも救われません(John 1:12-13; 16:8-11; I Peter 1:23-25)。人類は明らかに墮落し、罪の中に失われています。

選び ELECTION

私たちは、世の基が定まる前に神が信仰者を選び(Ephesians 1:4-6)、主の予知に基づいて、信仰者が御子のかたちに似るように定められた(Romans 8:29-30)と信じます。私たちは、神は主の御名を呼ぶすべての人に救いを与えてくださると信じます。Romans 10: 13は「主の名を呼ぶ者はだれでも救われる」と言っています。私たちはまた、神は御子イエス・キリストを信じる人を みもとにお召しになる (I Corinthians 1:9) と信じます。しかし聖書はまた、すべての人に招き(召し)は与えられているけれども、それを受け入れる人は少ないとも教えています。聖書全体がそう教えています。Revelation 22:17は「命の水が欲しい者は、価なしに飲むがよい」と宣言しています。I Peter 1:2「あなたがたは、父である神があらかじめ立てられた御計画に基づいて、“霊”によって聖なる者とされ、イエス・キリストに従い、また、その血を注ぎかけていただくために選ばれたのです。」Matthew 22:14「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。」神は明らかに選びをなさいますが、人も救いへの神の招きを受け入れなければなりません。

贖い ATONEMENT

私たちは、イエス・キリストが「全世界に対して」なだめの供え物(罪に対する神の義憤を満足させるもの)として死なれ(I John 2:2; 4:9-10)、罪と死と地獄から救われるただ一つの希望として、イエス・キリストの死と復活を信じる人を、主は贖い、お赦しになる(Ephesians 1:7; I Peter 1:18-19)と信じます。私たちは、永遠の命は神の賜物であること(Romans 6:23)、また、イエス・キリストを信じる者はだれでも決して滅びることがなく、永遠の命を持つ(John 3:16-18)と信じます。I Timothy 4:10「すべての人々、ことに信じる人々の救い主である、生ける神に望みを置いているからです。」Hebrews 2:9「ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見えています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。」イエス・キリストの贖いの犠牲は、明らかに全人類を救うに十分なものでした。

恵み GRACE

私たちは、神の恵みは人間の努力や価値の結果ではなく(Romans 3:24-28; 11:6)、御子を信じる人々に対する神の哀れみと愛の応答だと信じます(Ephesians 2:4-10)。恵みは、私たちの行いでは受けるに値することも受けるに足ることもできないことを与えてくれます(Romans 11:6)。私たちは、神の恵みと哀れみに対して人間が反抗することは可能だと信じます。Matthew 23:37「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。」私たちは救われる条件を持たないので罪に定められることはありませんが、信じないことを選択した者は有罪と宣告されます(John 3:18)。John 5:40「あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもつて来ようとはしません。」John 6:37「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに來ます。そしてわたしのところに來る者を、わたしは決して捨てません。」John 6:40「わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。」John 7:37「だれでも渇いているなら、わたしのもつて來て飲みなさい。」John 11:26「また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。」

イエスは明らかに人間の反抗と拒絶の事実を知っておられます。John 12:46-48「わたしは光として世に來ました。わたしを信じる者が、だれもやみの中にとどまることのないためです。だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために來たのではなく、世を救うために來たからです。わたしを拒み、わたしの言うことを受け入れない者には、その人をさばくものがあります。わたしが話したことばが、終わりの日にその人をさばくのです。」Acts 7:51「かたくなで、心と耳とに割れを受けていない人たち。あなたがたは、先祖たちと同様に、いつも聖靈に逆らっているのです。」Romans 10:21「不従順で反抗する民に対して、わたしは一日中、手を差し伸べた。」Hebrews 10:26「もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。」10:29「まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御靈を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい。」明らかに、神の恵みは人間の自由意志によって反抗も受容もされ得るのです。

堅忍 PERSEVERANCE

イエス・キリストにある神の愛から私たちを隔てるものは何もなく(Romans 8:38-39)、イエス・キリストにある人々を罪に定めるものもない(Romans 8:1)と私たちは信じます。John 10:27-28にあるイエスの約束は確かだと信じます。「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて來ます。わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」

Philippians 1:6「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてください。」私たちは、贖いの日まで聖霊が保証してくださっていると信じます(Ephesians 1:13-14; 4:30)。しかし同時に、Matthew 7:21-23にあるイエスの言葉も心にとめています。「わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」明らかに、信仰者だと主張するけれども実際はそうではない多くの人々がいるのです。

Luke 9:62「だれでも、手を鋤につけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくありません。」I Corinthians 6:9-10は「正しくない者は神の国を相続することができない」と主張し、騙されないようにと警告しています。次に、神の国を相続することができないという終わりの一言とともに、さまざまな種類の罪深い生活様式のリストが挙げられています。同様のみことばはGalatians 5:19-21とEphesians 5:3-5にあります。

Galatians 5:4「律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。」Colossians 1:22-23「今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。ただし、あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられているのであって、このパウロはそれに仕える者となったのです。」II Timothy 2:12「もし彼を否んだなら、彼もまた私たちを否まれる。」Hebrews 3:12「あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。」I Timothy 4:1「しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わず霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。」II Thessalonians 2:3「なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。」II Peter 2:20-21「主であり救い主であるイエス・キリストを知ることによって世の汚れからのがれ、その後再びそれに巻き込まれて征服されるなら、そのような人たちの終わりの状態は、初めの状態よりももっと悪いものとなります。義の道を知っていながら、自分に伝えられたその聖なる命令にそむくよりは、それを知らなかったほうが、彼らにとってよかったです。」I Peter 1:10「ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたことを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。」Jude 24「あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、」

これらの難しい問題点において、聖書を中心として理解することは重要です。私たちは聖徒(真の信者)の堅忍を信じます。しかし、「クリスチャン」だと自称する人の中に、罪深い生活様式や反逆の心があることを私たちは憂慮します。これらの問題すべてに解答を見出すことはできませんが、私たちは主と主のみことばを信じたいと願っています。もし救いの理解を人間の行いや態度に置くなら、私たちは落胆し、不安になります。しかし目を主に向け、主ご自身とその全能の力に信頼するなら、このように言うでしょう。I Peter 1:3-9「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまの試練の中で、悲しまなければならぬのですが、信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。」

これらの問題において、私たちの間で聖霊の一致を保つことは容易ではありません。私たちの限られた知性では、神の主権と人間の責任は交差することのない2つの平行線のように思えます。神の道は「測り知りがたく」(Romans 11:33)、また聖書は「自分の悟りに頼るな」(Proverbs 3:5)と警告しています。聖書の中で神がおっしゃっておられることを一付け足すことも削ることもなく—そのまま言うことは、いつも簡単というわけではなく、快適でも完全に理解可能というわけでもありません。しかしみことばは私たちにこう言っています、上からの知恵はすべての人に愛と親切を示すもの、信仰者の一致を求めるもの、互いを分かち道を見出そうとしないものだ。どうか、私たちすべてが互いに愛し合い、親切にし、思いやり、イエス・キリストが私たちを赦されたように互いに赦し合うように、神が助けくださいますように(Ephesians 4:32)。難しい教理上の問題で、それぞれが礼儀正しい態度と謙遜な心を持ち、キリストのからだの中で仕えるように召してくださった主に最も喜ばれることを求めますように。議論—YES! 意見の相違—YES! 分離—NO!

「実によって彼らを見分けることができます」とイエスは言われました。聖句におけるある立場が人を論争的にし、律法的にし、あつれきを生じるものになるなら、私はその立場の妥当性を疑います。自分がかたがと愛情深く親切になり、もっと赦し、慈悲深くなるのに役立つことを受け入れたいと望みます。そうして私はさらに主に似た者になりつつあることを知るので。もしあなたが教義上の事柄に関して一方の側に強い個人的な確信を持つようになったなら、それがどのようにあなたの性質によりキリストに似た者にな

るように働いているのか、まず考える特権を私たちに与えてください。そしてそれから、それと同じ信条を持つ必要があるかどうか判断します。常に私たちがその教えの実を見て納得するようにしてください。

私たちの人生にイエスの愛のご性質を生み出すことを求めましょう。正しい理解を持ちながら間違っただけをとるよりも、むしろ間違っただけを理解をしながら正しい態度を持つ方が私は良いのです。神はすぐに私の理解を変えることができになります。しかし態度を変えるにはしばしば一生かかるのです。

訳者・BooBのひとりごと

この主題に取り掛かったきっかけ

聖霊・カリスマ派の一部に、ある教えに帰依すればカルヴァン主義もアルミニウス主義もひとつになることができるとするグループがあります。その主張を聞いたとき、予定論はおろか神の主権と人の自由意志さえ論じないで、よくもそんなダイソレタコトが言えるなど疑問に思ったのが、この主題について調べてみようと思ったきっかけです。

はっきり言います

教義的立場を超えて一致を保つのは、Chuck Smith師が言う通り聖霊による愛と謙遜によるのであって、特定の教えを標榜することによるものではありません。もし、ある特定の教えを上位とし、聖書からの他の教えを下位とするようなことをするならば、一致ではなく全く反対の分離、分派をもたらしてしまうでしょう。

なお、日本ではカルヴァン主義を掲げる教派もアルミニウス・ウェスレー主義を掲げる教派も、極端なところはほとんどありません。しばしば超教派の働きや地域のクリスマスイベントなどで互いに協力し合って宣教しています。

「聖句におけるある立場が人を論争的にし、律法的にし、あつれきを生じるものになるならば、私はその立場の妥当性を疑います。自分がもっと愛情深く親切になり、もっと赦し、慈悲深くなるのに役立つことを受け入れたいと望みます。そうして私はさらに主に似た者になりつつあることを知るので。」Chuck Smith師